



故 馬 杉 一 重 先 生

馬杉一重先生（2019年3月10日永眠，88歳）

▷略 歴◁

1930年8月1日	出生
1950年3月	滋賀県立大津高等学校卒業
1950年4月～1957年4月	株式会社日本勧業銀行大津支店勤務
1961年3月	同志社女子大学学芸学部家政学専攻卒業
1963年4月～1964年3月	同志社女子大学被服教室勤務
1964年4月～1967年3月	同志社女子大学家政学研究室職員
1967年4月～1970年3月	同志社女子大学研究助手
1970年4月～1976年3月	同志社女子大学専任講師
1976年4月～1986年3月	同志社女子大学助教授
1986年4月～1996年3月	同志社女子大学教授
1981年4月～1983年3月	同志社女子大学学生主任
1988年4月～1992年3月	同志社女子大学宗教主任
1992年4月～1994年3月	同志社女子大学家政学科主任
1996年3月	定年退職

▷学 位◁

医学博士

▷主な担当科目◁

科学実験 A, 被服学概論, 衣服実習 I, 被服衛生学, 被服構成学, 家政基礎研究, 被服製作実習, 家政学実験, 被服衛生学演習, 被服学概論 B

▷所属学会◁

日本家政学会, 衣服学会, 日本衛生学会, 日本繊維製品消費科学会, 日本人間工学会, 日本産業皮膚衛生協会, 日本化粧品学会, 日本繊維機械学会

馬杉一重先生を偲んで

2019（平成31）年3月10日、馬杉一重先生は天に召された。88年のご生涯であった。

先生の追悼文を書くように依頼されたとき、私は迷った。門外漢の私には、先生の専門分野の功績を称える資格など無い。けれども、勤務の時期が重なった5年近くのおつき合いの間には、思い出となるような話がある。個人的な振り返りの域にとどまることをお許しいただければと思う。

私が就任した1990（平成2）年当時の家政学科は、坂本（家庭経済）、上野（児童文化）、片山（児童学）、紀（家庭経営）、佐々木（都市経済）、清水（服飾文化）、岩谷（流通経済）の各先生方と、「梁山泊」とは言わないが、多種多様な人材が集まり、激しく意見が飛び交う場であった。「えらいところにやってきた」と気弱な私は後悔した。その中で、馬杉先生は、「和顔愛語（穏やかな顔つきで、相手を思う優しい言葉）」の人であった。旧楽真館の被服学研究室で、学生たちが活発に研究活動を行うための条件整備に熱心に取り組んでおられた。学生の主体性を尊重され、卒業論文のテーマも、化粧品と香り、子ども用衣料の安全性、現代社会の着物考、貸衣装の歴史、服装の色彩とデザインなど、機能的なものにとどまらず、精神的なもの、社会的なものを含めて、多様であった。

卒業生の川野香さんが『同志社同窓会報』（59号）に先生のお人柄を感じさせるようなゼミ生との温かなエピソードを綴っておられる。その一部を紹介したい。

「馬杉先生が楽真館5階の研究室で、御所の緑豊かな木々に背に、いつもにこにこ穏やかにお話しされていたお姿が今も鮮明に思い出されます。

ゼミ生の疲れを癒すために、研究室にはいつもお菓子を用意しておいてくださいました。私は卒業実験の休憩時間に、よく先生とお話ししながらいただいていた。卒業式の日には、庭に咲いていたニオイスマレを持って来てくださり、『昔、同女の卒業式では卒業生にスマレを渡されていたのよ』とおっしゃられ、研究室に生けてくださいました。』

先生は宗教主任としてリトリートなどにも活発かつ献身的に参加され、学生たちとの交流を深められた。そのとき榮光館で奨励された日本統治下台湾のお話が今でも強く残っている。先生は台湾南部で高等女学校2年までを過ごし、敗戦とともに15歳で引揚げ船を使い帰国された。その体験から、平和への希求を強く持つ人であった。大学入学当初から東アジアの基督教社会事業史をテーマとしていた私は、礼拝での奨励をきっかけに先生の研究室を何度も訪ね、台湾屈指の名門校であった台南第一高女時代の貴重な写真や資料をたくさん見せていただき、時が経つのを忘れ先生の話に聴き入ったことを今も鮮明に覚えている。

また、群馬県榛名の高齢者施設・新生会における本学ワークキャンプの実現と継続にもご尽力くださり、そして、卒業指導等で米国への在外研究をためらう私の背中を強く後押ししてくださったのも先生であった。先生には国を超える進取の気風があったと思う。

先生は、「家政学部」を「生活科学部」と改称した翌年（1996〔平成8〕年）の3月に退職された。いつも、立ち止まって回り道しながら、意見を述べ合うことのできる環境、失敗が許される環境を揃えていくことの大切さを訴えられた。先生は、同志社に繋がり、同志社の教育と研究に生涯にわたって情熱を傾けた人であった。1948年の学芸学部食物学専攻の立ち上げから数えて、2018年度は生活科学部が70歳となった節目の年であることに、不思議な巡りを実感する。と共に、私たちには、こうした先人の数々の尊い実践を、学び、引き継ぎ、伝える務めがあることを今改めて思い起こしたい。

謹んで馬杉一重先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

生活科学部特任教授 宮本 義信